

緑の風 FAX版

No. 11 2021年8月6日 JR東労組



JR 東労組ホームページ

広島に原爆が投下されてから **76年**

広島「原爆の日」



今年の平和記念式典もコロナ禍のために、縮小しての開催となりました。

平和宣言で松井市長は「若い人を中心とするこうした行動は、必ずや各国の為政者に核抑止政策の転換を決意させるための原動力になることを忘れてはいけません。被爆から3年後の広島を訪れ、復興を目指す市民を勇気づけたヘレン・ケラーさんは、『一人ではできることは多くないが、皆一緒にやれば多くのことを成し遂げられる。』という言葉で、個々の力の結集が、世界を動かす原動力となり得ることを示しています。」と話し、改めて平和の大切さとそれを守ることの重要性を語っていました。

原爆投下から76年が経過し、被爆者の平均年齢は 84 歳になるそうです。そのような中、祖父や祖母の被爆体験を幼いころに聞いた若い世代の方たちが、様々な形で行動しています。平和宣言で紹介されている言葉のように、平和を求める行動を一人ひとりが実践することが大きな力になっていきます。



オリンピック・パラリンピックという「平和の祭典」が 9 月 5 日まで日本で開催されています。だからこそ、改めて平和について考えましょう。そして、安心して暮らせる社会の実現に向けて、自分自身は何ができるのか、仲間と共に何ができるのかを是非考えて行動していきましょう！

平和憲法を守るために、平和の大切さを広めよう！